

募集テーマ具体例（地域の防火防災功労賞部門）

<b>募集テーマ 1 防災行動力の向上に関する取組</b>	
(1)	複数の団体が連携して、防火防災訓練の推進や防火防災まちづくりに主体的に取り組んでいる事例
(2)	防火防災まちづくりのために、消防防災施設及び設備（地下水や雨水を活用した貯水槽・小規模水利、備蓄品等）の整備を進めている事例
<b>募集テーマ 2 震災対策に関する取組</b>	
(1)	積極的な取り組みにより、家具類の転倒・落下・移動防止の普及を図っている事例
(2)	事業所、町会・自治会等において、震災時における行動計画・資器材の整備を図り、継続的な震災訓練を実施している事例
(3)	地域が主体となった長年にわたる震災対策の実施や、講演会、座談会等を定期的に行っている事例
<b>募集テーマ 3 総合防災教育に関する取組</b>	
(1)	小学校、中学校等で、全校をあげて児童、生徒等に対して継続的な防火防災教育を実施している事例
(2)	小学校、中学校等で、PTAや町会・自治会、NPO等が連携して、児童、生徒等に対する防火防災教育を活発に推進している事例
<b>募集テーマ 4 要配慮者の安全対策に関する取組</b>	
	災害時の安否確認や避難誘導、避難所でのケア等について、地域住民や事業所等と協定を締結するなど、関係機関等との連携協力体制の確立を進めている事例
<b>募集テーマ 5 住宅防火対策及び放火対策に関する取組</b>	
(1)	町会・自治会での共同購入その他の有効な手段を活用して、住宅用火災警報器の本体交換を推進した事例
(2)	住宅火災による高齢者の被害低減のため、地域と関係機関等が一体となった見守り体制の確立等を進めている事例
(3)	地域が主体となった長年にわたる防火の呼びかけ、放火対策の実施や講演会、座談会等を定期的に行っている事例
<b>募集テーマ 6 防災情報の収集・伝達体制の整備に関する取組</b>	
(1)	災害時における地域の被害情報の早期収集体制や防災機関等への伝達体制の整備を推進している事例
(2)	地域の防火防災への取組や防火防災に関する情報について、ホームページ、SNS等で広報啓発活動を継続的に行っている事例
<b>募集テーマ 7 その他の取組</b>	
(1)	「東京マイ・タイムライン」等を活用した独自の風水害対策を推進している事例
(2)	消防団との連携により地域防災力の向上に貢献している事例

## 別記様式 1 ～ 3 記載要領（地域の防火防災功労賞関係）

### 1 別記様式 1

(1) 「団体名」欄

受賞した場合に賞状に記載する名称とし、ふりがなを記載してください。

(2) 「事例名」欄

事例の内容を容易に理解することが可能な名称とし、ふりがなを記載してください。

(3) 「活動期間」欄

団体の設立期間とは異なります。応募する取組事例の活動期間を記載してください。現在まで継続している取組事例は、活動開始から令和 7 年 4 月末日までの期間を計上してください。

(4) 「募集テーマ番号」欄

別紙 1 の募集テーマに該当する番号を記載してください(複数選択可)。

(5) 「事例の内容」欄

当該事例の経緯（活動の背景、地域特性など）、内容、特色（創意工夫した点など）などについて 1,000 字程度 で記載してください。

また、訓練について内容を記載する場合には、訓練内容や年間に何回、何名参加したのかなど 具体的に 記載してください。

(6) 「前回受賞からの発展性または継続性」欄は、過去に地域の防火防災功労賞で「受賞」した時からの発展性などを記載する欄です。前回の「応募」からではありません。前回、地域の防火防災功労賞を受賞した時から、新たに行った取組や工夫（発展性）、継続的に行ったことによる効果（継続性）等について記載してください。受賞歴のない団体は、「なし」と記載してください。

(7) 「苦勞した点」欄

活動の際に苦勞した点について、200 字程度 で記載してください。

(8) 「セールスポイント（特徴）」欄

当該事例のセールスポイント（特徴）について、200 字程度 で記載してください。

(9) 「受賞歴及び応募歴」欄

これまでに受賞した表彰種別・受賞年月（「防災まちづくり大賞」「東京防災隣組」等、地域の防火防災功労賞以外の賞を含む。）及び地域の防火防災功労賞への応募実績（応募回）を 必ず 記載して下さい。

(10) 「団体種別」欄

次のうちから該当するものの記号を記載してください（複数選択可）。

主：町会・自治会等の自主防災組織

事：事業所

ボ：ボランティア団体、NPO 法人

教：小学校、中学校等の教育機関及び P T A

他：その他の団体・組織等（具体的に記載）

(1) 「団体概要」欄

当該団体の構成人員及び団体を説明する内容を簡潔に記載してください。

(2) 「設立年月」欄

当該団体の設立年月を記載してください。

2 別記様式 2

写真（8枚以内）を貼付し、それぞれの写真に題名を付してください。

3 別記様式 3

(1) 「団体名」欄

別記様式 1 の「団体名」欄から転記し、ふりがなを記載してください。

(2) 「事例名」欄

別記様式 1 の「事例名」欄から転記し、ふりがなを記載してください。

(3) 「活動概要」欄

別記様式 1 との整合を図り、「活動概要」、「セールスポイント」、「団体の規模」について簡記してください。

(4) 「受賞歴 応募歴」欄

別記様式 1 の「受賞歴及び応募歴」欄から転記してください。

(5) 「団体種別」欄

別記様式 1 の「団体種別」欄から転記してください。

(6) 「活動期間」欄

別記様式 1 の「活動期間」欄から活動年月計を転記してください。

## 第22回地域の防火防災功労賞調査票

所属名	〇〇消防署	
団体名	〇〇区立△△小学校	
事例名	〇〇小学校を拠点とした防火防災の取組み	
活動期間	平成23年4月～令和4年5月（14年2か月）	
募集テーマ番号	1、5	
事例の内容	<p><b>【経緯】</b> 当校が所在する東京都〇〇区〇〇地区は、今年度、東京都で不燃化推進特定整備地域に指定された古くからの木造住宅密集地域である。首都直下地震等発生時には、大規模な火災や家屋の倒壊等により甚大な被害が予想され、地域住民や事業所の力が必要とされている。当校では災害時の児童への被害を軽減するため、以前より学級活動の時間を活用し、総合防災教育を実施していたが、平成23年度から毎月、学校の授業カリキュラムに発達段階に応じた総合防災教育を導入している。</p> <p><b>【活動内容】</b> 1 発達段階に応じた総合防災教育 毎月想定を変えた避難訓練の実施と合わせて、約45分間の防災の授業を設け、ゲストティチャーに消防職団員を招いて、各学年の発達段階に応じた総合防災教育を継続的に実施している。（児童●〇名・年間12回実施） 平成27年度以降は、〇〇地区の災害時支援ボランティアや同校の消防少年団員が指導者に加わり低学年を中心に総合防災教育を実施している。（年間●回実施） 2 訓練披露 平成27年度から〇〇地区の自治会合同防火防災訓練と協働し、これまでの児童への総合防災教育の成果を地域の方々に披露するとともに地域の区民消防隊や自治会防災部員主導の訓練を受けている。平成〇〇年9月〇日（〇）に実施した際はPTAを通して、児童の保護者に参加を呼びかけた結果、訓練参加者は若い世代の保護者も加わり1,000名を超えた。 3 防災地域巡り 平成26年度から小学4年生以上全員を対象に、学んだ防災知識を生きたものとするため、土曜課外授業の時間を活用して、防災地域巡りを毎年実施している。〇〇地区防災運営協議会のメンバーが支援者となり、学年ごとに地域を巡り、毎回狙いを変える等の工夫を加えている。例として5年生100名が10班編成で居住する各地域を巡り、作成した防災マップは、損保協会主催の「ぼうさい探検隊」へ10作品を応募するなど、防災意識の発展・向上を図っている。 4 聴覚障害者に対する訓練参加の呼びかけ 平成27年度から聴覚障害者団体を通じて、〇〇地区及び周辺に居住する聴覚障害者に訓練への参加を呼びかけ、参加された方々に「7つの問いかけ」を活用して動機付けを行うとともに、「できる範囲で自分の身は自分で守る」といった手法を考えさせ、訓練を受けている。</p>	
前回受賞からの発展性または継続性	※新たに行った取組や工夫、継続的に行ったことによる効果等を記載してください。	
前回（平成〇〇年、第△回）最優秀賞受賞時から、新たに行った取組	<p>1 平成26年度から、小学4年生以上全員を対象に土曜課外授業の時間を活用して、防災地域巡りを実施し、学校と地域防災団体との連携を拡充した。 2 平成27年度以降、〇〇地区の災害時支援ボランティアや同校の消防少年団員が指導者に加わり低学年を中心に総合防災教育を実施し、地域の防災指導者との連携をより深めた。</p>	

(裏面)

苦 勞 し た 点				
<p>1 防災教育の指導について、小学校単独では限界があるため、周辺自治会、〇〇消防署、〇〇消防団、日本赤十字社、民生児童委員等と調整し、指導者の参画を働きかける点で苦勞した。</p> <p>2 〇〇区防災教育モデル事業で選出された5小中学校の中でも、実質的に先進的な取組みを導入する中核校であったため、あらゆる機会を活用し、防災啓発を実施したが、講師の派遣や資器材の調達など、多くの関係機関との折衝、調整が頻繁に必要となり、訓練の実施準備に苦勞した。</p>				
セールスポイント (特徴)				
<p>1 毎月の避難訓練に合わせて、45分間の防災教育を、学年別に発達段階に応じた内容で、継続的に実施している。ゲストティーチャーとして、消防団員や女性区民消火隊も参加している。(年12回実施)</p> <p>2 学校の教職員に対する防災指導が充実しており、ゲストティーチャーが不在の場合でも、教職員により防災教育が実施できる体制を構築している。</p> <p>3 合同訓練実施後、地区防災運営協議会の方々へ、在校生高学年を中心に、体験した訓練に対して、発見・考察したことを発表し、意見交換するなどの機会を設け、生徒児童に実際に災害が発生した場合のことをイメージさせる授業を盛り込んでいる。</p>				
受賞歴及び応募歴		※受賞歴及び応募歴があれば必ず記載してください		
<p>受賞歴  第〇〇回防災まちづくり大賞消防庁長官賞 (平成〇年〇月)  第〇回地域の防火防災功労賞最優秀賞 (平成〇〇年1月)  第〇回東京防災隣組認定 (平成〇〇年〇月)  地域の防火防災功労賞応募歴 計3回 (第〇回、第△回、第◆回)</p>				
団体種別	教	他 の 場 合 ( )		
団体概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇区立〇〇小学校教職員 30名</li> <li>・〇〇地区防災運営協議会 40名</li> </ul> (教職員、PTA、民生児童委員、青少年育成委員、〇〇地域振興室、〇〇区防災課、〇〇消防署、〇〇消防団、周辺自治会代表者)			
設立年月	平成9年 4月			
問 合 せ 先	所 属 名	〇〇消防署	係 名	地域防災担当
	担 当 者 名	消防次郎	消 防 電 話	9-00-22-333

写真貼付表

団体名 ○○町会連合会

<h1>写真</h1>
○○地区総合防災訓練
<h1>写真</h1>
まちかど防災訓練

<h1>写真</h1>
防火防災シンポジウム
<h1>写真</h1>
防災マップ

## 第 2 回地域の防火防災功労賞の応募事例の概要

所属	ふりがな 団体名	ふりがな 事例名	活動概要	受賞歴 応募歴	団体種別	活動期間
〇〇署	きたちようかほうさいかい 北町会防災会	ぼうさい あいことば きず ひと まち 防災の合言葉で築く人と街	<p>【活動概要】 これまで防災訓練の実施や防災公園の設置などの活動を実施してきた。防災に無関心な住民や希薄になりつつある地域の連帯感を強めるために、誰もが興味を持てる防災イベントを実施した。</p> <p>【セールスポイント】 防災マップづくりなどの市民レベルで実施できる活動を取り入れ、参加者自身が考える内容とした。</p> <p>【団体の規模】 2,000世帯 (5,000名)</p>	<p>【受賞歴】 ○第14回防災まちづくり大賞消防庁長官賞 (平成〇年〇月) ○●●区長感謝状 (平成〇年〇月)</p> <p>【応募歴】 第 5、6 回</p>	主	20年0か月
〇〇署	ぼうさい ちゅうがっこう 防災中学校	あら ぼうさい にな ていくせい 新たな防災の担い手育成!	<p>【活動概要】 消防少年団員でもある中学生が、教職員とともに地域の防災訓練に参加していたが、近隣町会からD級可搬消防ポンプの寄贈を受けたことを契機に、校内で訓練を行うようになった。消防少年団OBとその保護者が学校に働きかけ、学校の部活動として訓練できるようになった。</p> <p>【セールスポイント】 防災マップの作成やD級可搬ポンプを活用した訓練など学校の部活動として行っている。</p> <p>【団体の規模】 18名</p>	<p>【受賞歴】 なし</p> <p>【応募歴】 なし</p>	教	1年2か月

## 第 1 2 回地域の応急手当普及功労賞調査票（記載例）

ふりがな 団体名	株式会社 ○○○○			
団体連絡先	住 所	東京都○○区○○町 1-2-3	電話	03-1234-XXXX
	担当者名	(部署・役職) : 総務部 庶務第二課長 (氏名) : ○○ ○○		
	メールアドレス	○○○@△△△		
問合せ先	所属担当者	丸の内消防署 警防課 救急係 氏名 : △△ △△ (毎日)	消電	9-00-20-0
取 組	継続年数	8年6ヵ月 (R7年4月現在)	救護計画	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 応急手当普及員への委嘱 <input checked="" type="checkbox"/> あり↓ <input type="checkbox"/> なし
	訓練教育頻度	<input checked="" type="checkbox"/> 年3回以上 <input type="checkbox"/> 不定期	定着度	<input checked="" type="checkbox"/> 5年以上継続 <input type="checkbox"/> 不定期 (自主開催 3回)
	地域の連携	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	【連携内容・使用許可範囲】 当事業所は○○地区防災計画にて災害時の応急救護の役割を担っている。毎年事業所で実施している応急救護訓練に地域住民が参加し、お互いの顔が見える関係を築いている。 事業所の1階玄関前に設置してあるAEDは、24時間体制で地域住民にも使用可能となっており、安心して過ごせるまちづくり実現のため貢献している。	
	AED設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> あり (3台) <input type="checkbox"/> なし		
	AED使用許可状況	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可		
救命講習 受講状況	総構成員数	120名 (R5年4月現在)	救命講習受講人員	42名 (うち普及員 2名) <受講率 35%>
	講習種別	上級救命講習 0回、普通救命講習 4回、応急救護訓練 2回 ※再講習を含む		
奏功事例 (過去3年以内)	令和○年○月、社内に訪問してきた男性が倒れた際、救命講習を受講している社員3名によって119番通報、心肺蘇生、社内のAEDにてショックを1回実施し、救急隊到着までに呼吸と脈拍が回復した。社員3名が消防総監感謝状の贈呈を受けた。			
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員全員の救命講習受講を目指しているため、応急手当普及員2名が消防署から委嘱を受け、社内で救命講習の自主開催を実施している。</li> <li>・3年前から新人研修内で、普通救命講習を実施しており、委嘱を受けた職員が中心となって講習計画を作成している。</li> <li>・社内で急病人が発生した際の救護マニュアル(救護班、通報班の編成等)があり、対応訓練を毎年実施し、緊急時に備えている。</li> <li>・誰もが利用する自動販売機の横にAEDを設置するなど、いざという時に迷わずAEDを取りに行けるように工夫をしている。</li> <li>・災害時に応急手当が行えるように、三角巾やガーゼ等を備蓄しており、地域の応急救護の中心となる事業所である。</li> </ul>			

## 地域の防火防災功労賞審査基準及び審査のポイント

## 1 審査基準

項目	要素
先駆性	創意工夫を凝らした先駆的な取組をしている。
継続性	長期間にわたった努力が認められる。
適時性	社会環境や住民のニーズの変化を捉えた取組をしている。
地域特性の反映度	地域特性に合わせた独特の工夫がある。
地域への貢献度 (可能性を含む。)	地域の防火防災力の向上に貢献している

## 2 審査のポイント

過去の選考委員会で選考委員から発言のあった審査のポイントは次のとおりです。

- (1) 訓練実施回数や訓練参加人員の数字を具体的に記載しないと、どれだけの実績があるのかが分からない。
- (2) 将来に向けてどのように取り組んでいくのか、今後の発展が期待できるような具体的な計画があれば、記載すると好印象になる。
- (3) 組織を構成している人・規模の記載が必要。  
(活動が長期にわたる場合は、メンバーの維持をどのようにしているか等)
- (4) より住民を巻き込んだ活動内容になっているかどうか。
- (5) 体制を整えるだけでなく、実際に訓練を反復的に実践している方が評価される。
- (6) 色々な取組を広く浅く記載するより、アピールポイントを絞って記載した方が高評価につながりやすい。
- (7) 過去に地域の防火防災功労賞を受賞した事例については、その後、新たに行った取組や工夫、継続的に行ったことによる効果等の具体的な訓練内容・回数等の記載が必要。

## 地域の応急手当普及功労賞審査基準及び審査のポイント

## 1 審査基準

項目	要素
先駆性	創意工夫を凝らした先駆的な取組をしている。
継続性	長期間にわたった努力が認められる。
自主救護力向上	自主救護力向上につながる取組をしている
地域への貢献度	地域の救護力向上に貢献している。
教育・訓練体制	実効性のある救護体制構築のため教育や訓練に取り組んでいる。

## 2 審査のポイント

審査に関しては取組の規模が推量できるように、数値を交えた具体的な記載に配慮願います。

- (1) 先駆性…斬新な視点や発想による工夫の程度とその効果の程度はどうか。
- (2) 継続性…取組の継続年数や規模の程度はどうか。
- (3) 自主救護力の向上…救命講習受講者の育成規模、救命講習の自主開催（委嘱）実施状況、救護計画の策定内容、実効性のある自主救護体制構築状況、AEDの設置状況の程度はどうか。
- (4) 地域への貢献度…緊急時の一般人によるAEDの使用許可状況、隣接地域における救急事象発生時の救護体制の構築状況等の程度はどうか。
- (5) 教育・訓練体制…職員教育等において自主救護に関する教育の頻度、自衛消防訓練等を通じた応急救護に関する訓練の定着度の程度はどうか。